

## 新任のご挨拶

公益社団法人 日本産業退職者協会  
会長 西浦三郎



この度、前田晃伸前会長の後任として、公益社団法人日本産業退職者協会会長に就任いたしました。

当協会は、我が国における高齢社会の到来に伴い、シニアの生活充実及び向上を図るため必要な啓発・広報活動を行い、各種の社会貢献事業の企画・実施と多様なイベント活動をサポートすることでシニアの積極的な社会参加を促し、生きがいと心身の健康実現を目指すことを目的として設立されました。

前身は、昭和43年に設立された「日本サラリーマンユニオン」で、昭和45年に「社団法人日本サラリーマン協会」に改組され、さらに昭和59年には経団連（当時）加盟企業を中心に法人会員を拡大し、労働省（当時）を主務官庁とした「社団法人日本産業退職者協会」として発足しました。その後、平成24年には内閣府の認定を得て現在の「公益

社団法人」に改組され、多くの法人会員や個人会員の皆様のご理解とご協力を得て、36年にわたる活動を継続しております。

ご高承のとおり、我が国の高齢社会対策の基本的枠組み「高齢社会対策基本法」は、平成7年に成立し、政府による「高齢社会対策大綱」作成が義務付けられ、平成30年には4度目の「新大綱」が閣議決定されています。

新大綱では「高齢者の体力的年齢は若返っており、就業・地域活動等何らかの形で社会との関りを持つことについての意欲も高い」「65歳以上を一律に『高齢者』と見る一般的な傾向は、現状に照らせばもはや、現実的なものではない」よって「70歳やそれ以降でも個々人の意欲・能力に応じた力を発揮できる社会環境づくりを推進することを基本方針とする」と明示されております。

我が国の高齢化は急速に進行しており、2018年10月現在総人口に占める65歳以上の割合（高齢化率）は28.1%になっており、このうち75歳以上人口（後期高齢者）は14.2%に達しています。

このような中で、当協会では「きたざわサロン（認知症予防）」「チャリティーコンサート（社会福祉施設入居者のご招待）」「エンディングノート『私の大切な覚書』の頒布」などの社会貢献活動を行うとともに「鎌倉探訪」「江戸東京歴史散歩の会」といった野外サークル活動をはじめ、「詩吟同好会」「竹とんぼ同好会」「パソコンクラブ」のような文化サークル活動を通じて、高齢者が人とのつながりを保ち続けられるよう努力・工夫を重ねております。また、私どもでは本部のほかに広島支部、神奈川会、埼玉会、西東京会および京葉会を組成し、身近な地域で安心して生活をエンジョイできるようなネットワーク作りにも励んでおり、多くの先輩諸氏や会員の奉仕によって、継続的な成果につなげて参りました。今後も、シニアが地域社会の中で役割をもって生き生きと生活ができるよう、自らの生きがいや健康づくりにもつながる活動をより一層充実させることに取り組み、当協会発展のために微力ではございますが努力して参る所存でございます。

皆様方のご支援・ご協力をお願い申し上げ、就任のご挨拶といたします。